

風がおる

札幌市立新陵中学校
学校だより 354号
令和7年3月14日(金)
校長 八木田 晃暢

第33回 卒業証書授与式

学校長式辞より（一部抜粋）

107名の卒業生の皆さん。卒業、本当におめでとうございます。在校生並びに教職員一同、心よりお祝いします。

私が皆さんと出会ったのは、昨年4月。それから早1年が経とうとしていますが、皆さんはこの新陵中学校の最高学年として、この学校を立派にリードしてくれました。生徒会活動においても、委員会活動においても、部活動においても、そして新陵祭や合唱発表会などの行事においても、卒業生の皆さんの「楽しむときは思いっきり楽しむ。真剣にやるときは全力で真剣にやる」という雰囲気。

まさに、先日の校長講話の時間、みなさんに紹介した「We Are The World」のメイキングシーン、マイケル・ジャクソン、スティービー・ワンダーなど、世界中で活躍する全米のビッグアーティストたちが創り上げるあの雰囲気と同じものを感じました。

「We Are The World」という楽曲は、今から40年前、アフリカの飢餓で苦しむ人たちのために、世界中で活躍するビッグアーティストたちが救いの手を差し伸べようと、一夜限りの収録に徹夜で臨んで創り上げた、今でも伝説となっている楽曲です。この歌の収録に集まったアーティストたちは、人種もバラバラ、歌のジャンルもバラバラ、性格もバラバラでした。

この学年の皆さんも、それぞれ個性豊かでみんなバラバラだと思います。明るくて社交的な人もいれば内気でおとなしい人もいます。穏やかで優しい人もいれば、イキがっていたりすしかたりしていたりする人もいるかもしれません。

そんなバラバラな性格の皆さんが、多様性を受け入れ、自分と違うタイプの人のことも尊重し、やるときには真剣になってひとつになる姿が本当に素敵でした。たとえ、しっかりできない人がいても、「お～い、一緒にやるぞ～」とあたたかく迎え入れる雰囲気が本当に素敵でした。

特に、10月末に行われた合唱発表会では、「一生懸命ってカッコいい！」ということの後輩の1、2年生や参観に来ていた小学生にしっかりと伝えてくれました。

先ほど、そんな卒業生の皆さん一人一人に卒業証書を手渡しました。その卒業証書は、中学校3年間を修了したという証であると同時に、小学校からの9年間の義務教育を終えた証でもあります。

これからは、大人たちから与えられた道をただ進むのではなく、自分で選んだ道を自分で選んだ方法で進んでいかなければなりません。そんな皆さんに、ある言葉

を送ります。

「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ やがて大きな花が咲く」

この言葉は、先日卒業生の皆さんに配布された、生徒会誌「遥（はるか）」でも紹介させていただきました。2000年に開催されたシドニーオリンピックで、女子マラソン初の日本人金メダリストとなった、高橋尚子選手が大切にしている言葉です。

何年も何年もの長い期間、まったく良い結果を出すことができずにいた高橋尚子選手は、高校時代の恩師から送られたこの言葉にいつも励まされ、あきらめずに努力を続け、ついに大きな花を咲かすことができたのです。

義務教育を終える皆さんは、これからの人生で、何度も困難にぶつかり、辛い思いをすることがあると思います。そんな時に、目先の成果ばかりを追い求めず、うまくいかない時こそしっかりと地に足をつけ、地道な努力を続けること、目には見えない根を伸ばしていくことが大切なのです。

「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ やがて大きな花が咲く」

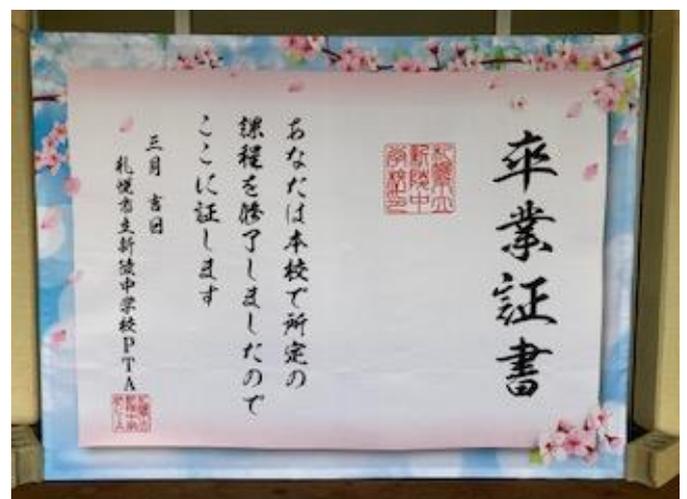
卒業生の皆さんにとっては、これからが人生の本番です。自分で考え、自分で様々な選択をし、自分で自分の未来をたくましく、そしてしなやかに切り開いていってください。

卒業生の皆さんの未来が、希望に満ちたものであることを願い、式辞といたします。卒業おめでとう！

令和7年3月14日

札幌市立新陵中学校

校長 八木田 晃暢



卒業証書授与式 答辞

卒業生代表 高薄 佑太

温かな春の陽気が、雪を溶かし、命の芽吹きが感じられる季節となりました。桜雲が待ち遠しい今日、私達はこの新陵中学校を卒業します。

今から3年前、まだ大きな制服に袖を通し、中学校生活への期待と不安を胸に私達は入学式を迎えました。新しい環境に戸惑う私達に先生や先輩方が優しく手を差し伸べてくださったことを今でも覚えています。中学校での経験はすべてが新鮮で、知らないことで溢れていました。

学校行事や部活動などの活動はとても楽しい反面、心身ともに疲労してしまうこともありました。私が部活動で大きな怪我をしてしまい、部活動に参加することができず、思うように走ることができなくなったことで、焦りや不安を感じていたとき、両親はいつもそばで励まし続けてくれました。そんな両親には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとう。

私達の中学校生活はとても変化の多いものであったと思います。入学した頃は、コロナウイルスの影響で、行事は縮小、中止がほとんどでした。しかし、年を重ねるごとに、規制が緩和されたことで、新陵祭のステージ発表や合唱発表会が復活し、かつての活気が戻ってきたのではないかと思います。それはとても喜ばしいことではありましたが、生徒全員が経験したことがないことであったため、最初は戸惑いもありました。しかし、仲間と一致団結することで、最高のものを作り上げることができ、かけがえのない思い出となりました。

私達は今、人生の旅路の分岐点にいます。苦楽を共にした仲間との別れはとても名残惜しいものです。ですが、それでも私達は前へと進んでいかなければなりません。不安なことは多くありますが、自信を持って進んでいきましょう。

私が人生の信条としている言葉があります。それは「人から応援される人間になれ」という言葉です。私達は必ず誰かに支えられて生きています。だからこそ挨拶や、お礼など礼儀をしっかりと。そうすれば周りは応援してくれるという言葉です。どんな場所にいても、礼儀をしっかりとしていれば、周りとは打ち解けられたり、応援してくれる人ができたりすると私は思います。

在校生の皆さん、今までありがとうございました。これから、この新陵中学校を創っていくのは皆さんです。この学校の良き伝統を受け継ぎ、さらにより良い学校にしていってください。そして、教職員の皆さまを始め、ご来賓の皆様、保護者の皆様、今まで私達を支え続けてくださりありがとうございました。そしてこれからも、私達の成長を暖かく見守ってくださると嬉しいです。

最後になりましたが、卒業生を代表して、心からの感謝を伝えると共に、皆様のさらなるご活躍と、新陵中学校のさらなる発展を願い、お別れの言葉とさせていただきます。

